

認定調査補助票 (Ver.5)

調査対象者氏名: _____
 調査日: 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ()

被保険者番号: _____

基本調査

[第1群: 身体機能・起居動作]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
第1群 共通		可能な限り、実際に動作等を行ってもらおう。 実際に行ってもらった状況と日頃の状況とが異なる場合(または、実際に行ってもらえなかった場合)は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。	
		福祉用具(補装具や介護用品等)や器具類を使用している場合は、使用している状況で選択する。	
(1-1~2) 共通		《確認動作を行ってもらった場合》	
		・本人または家族の同意の上、ゆっくり動かして確認動作の実施をする。	
		・対象者が痛みを訴える場合は動作の確認を中止し、そこまでの状況で選択する。	
		《確認動作を行ってもらえない場合》	
		・危険と判断される場合は確認は行わない。 ・理由や状況を具体的に聞き取り、日頃の状況で選択する。 ・「欠損」がある場合は、動作が行えない部位の選択肢と「その他」を選択する。	
(1-1) 麻痺等	有無 (能力と 同じ)	1. ない 2. 左上肢 3. 右上肢 4. 左下肢 5. 右下肢 6. その他(四肢の欠損)	
		【確認動作】	
		上肢: 肘関節を伸ばしたまま、腕を自分で持ち上げ、静止した状態で保持。 座位の場合、前方及び横(仰臥位では、前方頭上)	
		下肢: 膝を伸ばす動作により、下肢を水平位置まで持ち上げ、静止した状態で保持。 大腿部が椅子や枕(仰臥位の場合)から離れないこと。	
		その他: 上肢、下肢以外に麻痺等がある場合、具体的な部位と状況について確認する。 【状況】思うように動かせないところ、しびれているところはあるか。	
(1-2) 拘縮	有無 (能力と 同じ)	1. ない 2. 肩関節 3. 股関節 4. 膝関節 5. その他(四肢の欠損)	
		【確認動作】	
		肩: 前方あるいは横のいずれかに可動域制限があれば選択する。	
		股: 屈曲(90度)または外転(膝の内側を25cm離す)のいずれかに可動域制限があれば選択する。	
		膝: 伸展もしくは屈曲方向のいずれかに可動域制限があれば選択する。 その他: 肩関節、股関節、膝関節以外に拘縮や可動域制限がある場合、具体的な部位と状況について確認する。 90度程度曲がれば「制限なし」となるため、必要以上に動かさないようにする。 【状況】関節で、痛みや腫れがあり、動かしにくいところはあるか。	

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
(1-3~9) 共通		<p>《調査手順》「つかまらないでもできますか？」 安全を確認した上で、手の届くところにつかまるものや支えがない状態で、できるかどうか、何かにつかまったり支えがあればできるかどうか、つかまってもできないかの確認をする。</p> <p>「日頃の状況(能力があるかどうか)と、日頃の生活の様子とは違う。」場合もあることから、日頃の生活の様子のみで判断するのではなく、各調査項目についてできるかどうかの能力を確認する必要がある。 (例)日頃ソファーにもたれていることが多い(日頃の生活の様子)場合でも、食事の時間は背もたれがなくても座位保持ができる(日頃の状況)場合がある。</p>	
	(1-3) 寝返り	<p>能力</p> <p>1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>ふとん等をかけない状態で、横たわったまま、左右のどちらかに身体の向きを変え、そのまま安定した状態になること。</p> <p>片側だけで可。横向きに寝た状態から、うつ伏せでも可。</p> <p>【状況】何(しっかりとしたもの)につかまるのか。その時の様子や、かかる時間なども。</p>	
(1-4) 起き上がり	<p>能力</p> <p>1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>ふとん等をかけないで寝た状態から、上半身を起こすこと。</p> <p>起き上がりの経路は限定しない。(※ギャッチアップ機能を使わない状態で選択する。)</p> <p>【状況】何につかまるか。その時の様子や、かかる時間なども。</p>		
(1-5) 座位保持	<p>能力</p> <p>1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえばできる 4. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>背もたれの無い状態で10分程度、座り方は問わない。角度は決まっていない。</p> <p>【状況】食事の時や、病院の診察場面での様子を聞く。何分くらいならできるか。</p>		
(1-6) 両足での 立位保持	<p>能力</p> <p>1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>10秒程度。</p> <p>【状況】一緒に10数えるのも良い。何につかまるか。その時の様子や、かかる時間なども。</p>		
(1-7) 歩行	<p>能力</p> <p>1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>継続して5m程度。</p> <p>【状況】何につかまるか。その時の様子や、かかる時間なども。何mくらいなら歩けるか。</p>		
(1-8) 立ち上がり	<p>能力</p> <p>1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>膝がほぼ直角に屈曲している状態からの立ち上がり。</p> <p>【状況】洋式トイレからの立ち上がりの様子。何につかまるか。その時の様子や、かかる時間なども。</p>		
(1-9) 片足での立位	<p>能力</p> <p>1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない</p> <p style="text-align: right;">【動作確認】</p> <p>左右いずれか、1秒程度。</p> <p>【状況】玄関の上がり框での様子や、ズボン等を着脱するときの様子。(2-11)との関連。</p>		

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項）	確認
(1-10~11) 共通		具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。	
		「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が、対象者にとって「不適切」であると認定調査員が判断する場合は、その判断根拠となる事項を聞き取る必要がある。	
(1-10) 洗身	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 4. 行っていない	
		全身を洗うこと。定義には入浴行為、洗髪は含まない。 【状況】麻痺等、拘縮との関連。自分では洗えないところがあるか。	
(1-11) 爪切り	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助	
		爪切りの準備から、切った爪を捨てるまでの一連の行為のことをいう。	
		調査日より概ね過去1か月の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。	
		左右どちらか片方の手の爪のみ切れる、手の爪はできるが足の爪はできない等の場合。 →「一部介助」を選択。 【状況】目が見えにくい、手指のしびれ等がある、かがめないなど、介助が必要な理由。	
(1-12) 視力	能力	1. 普通(日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能	
			【視力確認票で確認】
		見えるかどうか。実際に視力確認票の図を見せて評価する。	
		視力確認表は本人の正面に置く。視野狭窄・視野欠損を含む。	
		メガネ、コンタクトレンズ等を使用している場合は、使用している状況で選択する。 【状況】日常生活に支障があるか。	
(1-13) 聴力	能力	1. 普通 2. 普通の声がやっと聞きとれる 3. かなり大きな声なら何とか聞きとれる 4. ほとんど聞こえない 5. 聞こえているのか判断不能	
		聞こえるかどうか。	
		日常的に補聴器等を使用している場合は、使用している状況で選択する。	
		【状況】調査の最初に「このくらいの声で聞こえるか？」をたずねる。	

基本調査

[第2群:生活機能]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
第2群 ＜介助の方法＞ 共通		具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。	
		一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況で、より頻回に見られる日頃の状況で選択する。	
		福祉用具(補装具や介護用品等)や器具類を使用の場合は、使用している状況で選択する。	
		「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が、対象者にとって「不適切」とであると認定調査員が判断する場合は、その判断根拠となる事項を聞き取る必要がある。	
		「見守り等」の項目は、常時の付き添いの必要があるものや、認知症高齢者等の場合に必要な行為の「確認」「指示」「声かけ」のこと。	
(2-1~2) 共通		調査対象の行為自体が発生しない場合は、調査の定義のような行為が発生した場合を想定の上、適切な介助の方法を選択し、その選択根拠となる事項を聞き取る必要がある。	
★ (2-1) 移乗	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 臀部を移動させ、いす等へ乗り移ること。清拭・じょそう予防目的の体位交換も含む。 【状況】移乗が発生していない場合は、発生した場合を想定し適切な介助の方法で選択。	
★ (2-2) 移動	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「日常生活」において、食事や排せつ、入浴等で必要な場所への移動。外出行為は含まない。 【状況】一日の流れを聞きながら、移動が発生する場面を特定し、場面毎の介助の方法を聞き取る。軽度者では外出時の状況も聞き取る。①機会②頻度③具体的な手間	
(2-3) えん下	能力	1. できる 2. 見守り等 3. できない 食物を経口より摂取する際の「えん下」(飲み込むこと)の能力。評価軸は能力。 「できる」、「できない」のいずれにも含まれない場合は、「見守り等」を選択。 【状況】トロミづけ等の工夫をしているか。 飲み込みにくい頻度(回/日)(回/週)	
★ (2-4) 食事摂取	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 配膳後の食器から口に入れるまでの行為のこと。経管栄養の際の注入や中心静脈栄養含む。 具体的な介護の手間の聞き取り。朝昼夕で介護の方法が異なる場合あり。 「手間」の総量を分りやすくするため、長くかかる場合は時間(〇〇分)を聞くといふ。 定義に含まれない介護の手間(準備、食べこぼしの処理等)の聞き取り。 【状況】箸か、スプーンか、介護用の食器等の使用をしているか。	
(2-5~6) 共通		認知症高齢者等をトイレ等へ誘導するために必要な「確認」「指示」「声かけ」は、『見守り等』で評価。 ①排尿便の方法(介助の方法)・②頻度・③昼夜の違い(方法及び頻度)・④失禁・失敗の有無とその原因を確認することにより、介護の手間を把握しやすくなる。	
★ (2-5) 排尿	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排尿動作」「陰部の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ等の排尿後の掃除」 「オムツ、リハビリパンツ、尿とりパッドの交換」「抜去したカテーテルの後始末」の一連の行為。 【状況】①排泄方法、②(回/日中、 回/夜間)、③昼夜の違い、④失禁・失敗の有無とその原因	
★ (2-6) 排便	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排便動作」「肛門の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ、排便器の排便後の掃除」 「オムツ、リハビリパンツの交換」「ストーマ袋の準備、交換、後始末」の一連の行為。 【状況】	

★印:個人差の大きい調査項目。具体的な介護の手間と頻度を、より詳しく聞き取ると良い。

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項）	確認
(2-7~9) 共通		洗面所への誘導、移動は含まない。→(2-2)移動で評価 洗面所周辺の掃除等は含まない。	
(2-7) 口腔清潔	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「歯ブラシやうがいの水の用意」「歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備」「義歯をはずす」「うがいをする」等の一連の行為。 【状況】義歯は義歯の清潔保持でみる。	
(2-8) 洗顔	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「タオルの準備」「蛇口をひねる」「顔を洗う」「タオルで拭く」「衣服の濡れの確認」等の一連の行為。 「洗顔」を行う習慣がない場合は、入浴後に顔をタオルで拭く介助や、ベッド上で顔を拭く行為などの類似行為で代替して聞き取る。 【状況】	
(2-9) 整髪	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「ブラシの準備」「整髪料の準備」「髪をとかす」「ブラッシングする」等の一連の行為。 頭髪がない、短髪などの場合は、頭を拭く行為などで代替して聞き取る。 【状況】	
(2-10~11) 共通		普段使用している、衣服の着脱に介助が行われているかどうか。 時候にあった衣服の選択、準備、手渡し等、着脱までの行為は含まない。 「着脱」の行為は自力で介助なしで行っているが、着る順番が分からないので、1枚ずつ声かけしながら衣服を手渡している場合。→「見守り」を選択。	
(2-10) 上衣の着脱	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 【状況】	
(2-11) ズボン等の着脱	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 ズボン等をはかない場合はパンツ、おむつの着脱の行為で代替して聞き取る。 【状況】	
(2-12) 外出頻度	有無	1. 週1回以上(回/週) 2. 月1回以上 (回/月) 3. 月1回未満(回/年) 調査日より概ね過去1か月に、1回30分以上の敷地外へ出る頻度の確認。 外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。 〔「移動」「障害高齢者の日常生活自立度」の判断の参考として、外出時の介助の状況を聞き取っておくと良い。〕 【状況】受診、買い物などの状況。	

基本調査

[第3群: 認知機能]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
(3-1~7) 共通		認知症等がある場合、「できる」を選択した場合でも、選択の根拠を聞き取ることが重要となる。(特に、要支援2と要介護1の振り分けの際に必要となる。) 調査当日の状況と日頃の状況が異なる場合は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。	
(3-1) 意思の伝達	能力	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない 伝達する意思の内容の合理性は問わない。(5-3) 日常の意志決定との違い。 【状況】言葉を自分から発しているか。どのくらい、どう伝達できるか。	
(3-2) 毎日の日課 を理解	能力	1. できる 2. できない 起床、就寝、食事等の大まかな内容について、理解していること。 【状況】毎週のスケジュール、起床時間、食事時間など。	
(3-3) 生年月日や 年齢を言う	能力	1. できる 2. できない 生年月日(数日のずれ可)か年齢(2歳までの誤差可)のいずれか一方で可。 【状況】本人確認として質問するとよい。	
(3-4) 短期記憶	能力	1. できる 2. できない 調査直前にしていたことを把握しているか。確認が難しい場合、3品提示を実施する。「ペン」「時計」「視力確認表(紙または手の絵等という)」を見せ、復唱させ、覚えておくよう指示。5分以上後に2つを提示し、提示されていないものについて尋ねる。 【状況】見ていたTV番組、食事の内容など。	
(3-5) 自分の 名前を言う	能力	1. できる 2. できない 姓(旧姓も可)もしくは名前のどちらか。 【状況】本人確認として質問するとよい。	
(3-6) 今の季節を 理解する	能力	1. できる 2. できない 旧暦可、多少のずれ可。 【状況】その季節を答えた、理由を問うとよい。	
(3-7) 場所の理解	能力	1. できる 2. できない 「ここはどこですか」という質問にこたえる。「施設」「自宅」などの区別がつけばよい。 【状況】	
(3-8~9) 共通		BPSD関連項目: 第4群共通参照	
(3-8) 徘徊	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 目的もなく動き回る行動。重度の寝たきり状態であっても、ベッド上を這い回る等も含む。 【状況】出現の時期(いつ頃から)、介護者のストレス・負担。	
(3-9) 外出すると 戻れない	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 行動の頻度。居室や居住棟から出て、自室に戻れなくなる行動も含む。 【状況】自宅等からどれくらいの距離で、戻れなくなるのか。	

基本調査

[第4群:精神・行動障害]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認	
第4群 共通		社会生活上、場面や目的からみて不適当な行動の頻度を評価。 調査日より過去1か月間(この間に環境が大きく変化した場合は、その変化後から調査日迄)の状況から、その行動が現れたかどうかに基づいて選択する。※重複選択可 「ときどきある」:少なくとも1か月に1回以上、1週間に1回未満の頻度で現れる場合。 「ある」:少なくとも1週間に1回以上の頻度で現れる場合。 〔 頻度の質問では、調査員が具体的に「それは週1回ですか。それより多いですか。」のように尋ねると、具体的な頻度の回答が得やすい。〕		
		第4群は、実際の対応や介護の手間とは関係なく選択されるため、対象者への対応や介護の状況については、介護認定審査会の二次判定の判断を仰ぐことが重要。 ⇒ 発生している「介護の手間」・「頻度」を聞き取ることが重要となる。 また、逆に手間がかかっていない状況の聞き取りも重要である。		
		項目にはない事柄(異食、不潔行為、暴言・暴行など)でも、介護の手間がかかっていることは「介護の手間」・「頻度」を聞く。		
		本人や家族に、不愉快な思いを抱かせないよう質問に配慮する。		
	(4-1) 被害的	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 「物を盗られた。」「食べ物に毒が入っている。」「自分の食事だけがない」等の被害的な行動。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
	(4-2) 作話	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 事実とは異なる話をする行動。自分の都合のいいように事実と異なる話をすることも含む。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-3) 感情が不安定	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 泣いたり笑ったりして感情が不安定になる行動。場面や目的からみて不適当な行動。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度		
(4-4) 昼夜逆転	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 夜間眠れず、そのために日中に活動できない、もしくは、昼夜逆転し、通常、日中行われる行為を夜間行うこと。 夜更かしなど単なる生活習慣、生活環境のために眠れない場合は含まない。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度		
(4-5) 同じ話をする	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) しつこく同じ話をする行動。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度		
(4-6) 大声をだす	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週) 周囲に迷惑となるような大声を出す行動。 【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度		

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項）	確認
(4-7) 介護に抵抗	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		単に、助言しても従わない場合は含まない。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-8) 落ち着きなし	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		「家に帰りたい」という意思表示と落ち着きのない行動の両方がある場合のみ該当。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-9) 一人で出たがる	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		一人で外に出たがり目が離せない行動。環境上の工夫等で外に出ることがなかったり、歩けない場合は含まない。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-10) 収集癖	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		いろいろなものを集めたり、無断で持ってくる行動。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-11) 物や衣類を壊す	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		実際に物が壊れなくても、破壊しようとする行動も評価する。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-12) ひどい物忘れ	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		認知症の有無や知的レベルは問わない。単なるもの忘れは含まない。もの忘れによって、何らかの行動が起こっているか、周囲の者が何らかの対応を取らなければならぬような状況(火の不始末など)をいう。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-13) 独り言・独り笑い	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		意味もなく独り言や独り笑いをする行動。場面や状況とは無関係に、持続したり、突然現れたりすること。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-14) 自分勝手に行動する	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		明らかに周囲の状況に合致しない、自分勝手な行動をすること。性格的に「身勝手」「自己中心的」のことではない。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	
(4-15) 話がまとまらない	有無	1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)	
		話の内容に一貫性がない、話題を次々変える、質問に対し全く無関係な話が続く等会話が成立しない行動のこと。話下手のことではない。	
		【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度	

基本調査

[第5群: 社会生活への適応]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
第5群 ＜介助の方法＞ 共通		<p>具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。(定義に当てはまらなくても、手間が発生している場合は聞き取る。)</p> <p>介助が行われている理由(「能力」or「技術的経験不足」or「習慣」か)</p> <p>一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況で、より頻回に見られる日頃の状況で選択する。</p>	
(5-1) 薬の内服	介助の方法	<p>1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助</p> <p>薬を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む(水を飲む)という一連の行為。</p> <p>インスリン注射、塗り薬の塗布等、内服以外のは含まない。</p> <p>【状況】薬の内服がない場合は、薬剤が処方された場合を想定し、適切な介助の方法で選択。</p>	
(5-2) 金銭管理	介助の方法	<p>1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助</p> <p>所持金の支出入の把握、管理、出し入れする金額の計算等の一連の行為。</p> <p>金銭の出し入れは含まない。</p> <p>【状況】年金、預貯金等の管理状況。小遣い等少額の管理はどうか。</p>	
(5-3) 日常の意思決定	能力	<p>1. できる(特別な場合でもできる) 2. 特別な場合を除いてできる 3. 日常的に困難 4. できない</p> <p>1つの項目で2つの事を尋ねる項目。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な場合(ケアプラン作成への参加、治療方針への合意) ・日常的な状況(見たいテレビ番組、その日の献立、着る服の選択など) <p>【状況】冠婚葬祭・町内会行事への参加判断を聞くのも可。</p>	
(5-4) 集団への不適応	有無	<p>1. ない 2. ときどきある(回/月) 3. ある(回/週)</p> <p>家族以外の他者の集まりに参加することを強く拒否したり、適応できない等、明らかに周囲の状況に合致しない行動。</p> <p>調査前概ね過去1か月に行動が発生している場合、「介護の手間」「頻度」を聞き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ときどきある」: 少なくとも1か月に1回以上、1週間に1回未満の頻度で現れる場合。 ・「ある」: 少なくとも1週間に1回以上の頻度で現れる場合。 <p>【状況】行動が現れた場面・具体的な行動・頻度、周囲の対応・頻度</p>	
(5-5) 買い物	介助の方法	<p>1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助</p> <p>食材、消耗品等の日用品を選び(陳列棚から取り)、代金を支払うこと。</p> <p>【状況】宅配含む。普段の買い物では、何を、なぜ、手伝ってもらうか。</p>	
(5-6) 簡単な調理	介助の方法	<p>1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助</p> <p>「炊飯」「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めんの調理」のみ。</p> <p>経管栄養の場合、流動食の温めは「レトルト食品の加熱」に該当。</p> <p>【状況】食事の支度は誰が行っているか。施設等では施設職員による対応で。</p>	

基本調査

[その他:過去14日間にうけた特別な医療について]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)	確認
過去14日間にうけた特別な医療について共通		医師又は医師の指示に基づき、看護師等によって継続して実施されている医療行為に限定。 「実施頻度／継続性(開始時期、終了予定)」「実施者」「当該医療行為を必要とする理由」を聞き取る。	
1. 点滴の管理	有無	急性期の治療を目的としたものは含まない。薬剤・目的が分るとよい。	
2. 中心静脈栄養	有無	必要に応じて中心静脈栄養が供給できる体制にある場合を含む。	
3. 透析	有無	透析の方法や種類を問わない。	
4. ストーマ(人工肛門)の処置	有無	人工肛門が造設されている者に対し、消毒、バックの取り替え等の処置。	
5. 酸素療法	有無	実施場所は問わない。	
6. レスピレータ(人工呼吸器)	有無	経口・経鼻・気管切開の有無や、機種は問わない。	
7. 気管切開の処置	有無	カニューレの交換、開口部の消毒、ガーゼ交換、開口部からの喀痰吸引などの処置。	
8. 疼痛の看護	有無	がん末期のペインコントロールに相当する痛み。 鎮痛薬の点滴、硬膜外持続注入、座薬、貼付型経皮吸収剤、注射のみ。	
9. 経管栄養	有無	経口・経鼻・胃ろうであるかは問わない。	
10. モニター測定	有無	血圧、心拍、心電図、呼吸数、酸素飽和度、のいずれか1項目以上。 24時間にわたってモニターを体につけた状態で継続的に測定。	
11. じょくそうの処置	有無	大きさや程度は問わない。予防処置を含む。	
12. カテーテル	有無	コンドームカテーテル、留置カテーテル、ウロストーマ等。	
【状況】			

基本調査

[日常生活自立度]

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2	
	一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回に見られる状況で選択する。 その日頃の状況等について、具体的な内容を聞き取る。 (「能力」ではなく「状態」、特に『移動』に関わる状態像に着目して評価。)	
	【状況】日頃どのように過ごしているか。一人で外出できるか。横になっている頻度は。	
認知症高齢者の日常生活自立度	自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M	
	訪問調査時の様子から選択する。	
	【状況】日常生活への支障、意思疎通の困難さ、介護の必要性	

視力確認表

